

平成30年度

全国学力・学習状況調査における山口市の結果概要について

山口市教育委員会

1 調査の概要

(1) 目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査期日 平成30年4月17日（火）

(3) 調査対象 小学校第6学年児童
 中学校第3学年生徒

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ・国語A、算数・数学A：主として「知識」に関する問題
- ・国語B、算数・数学B：主として「活用」に関する問題
- ・理科：「知識」に関する問題、「活用」に関する問題

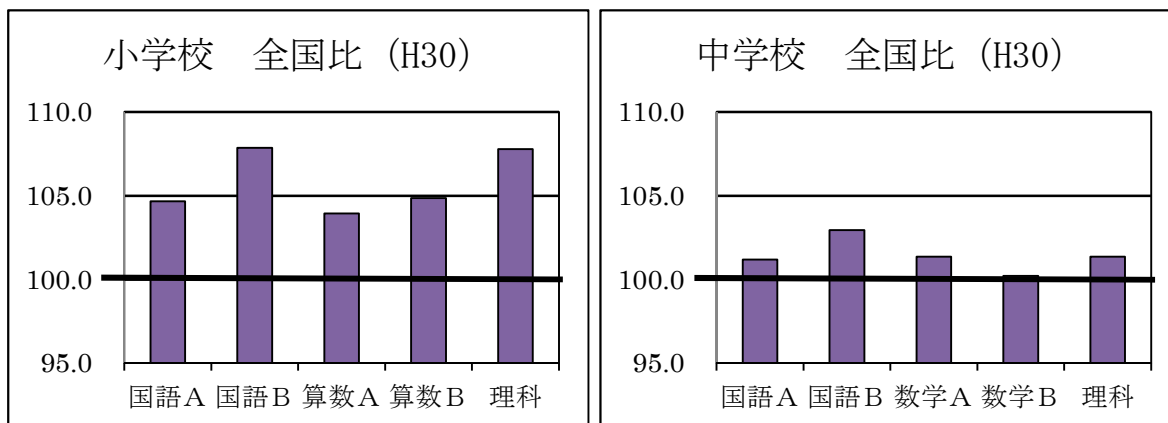
② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ア 児童生徒に対する調査（児童生徒質問紙）
- イ 学校に対する調査（学校質問紙）

2 教科に関する結果

(1) 本市と全国の各教科平均正答率の比較

全国の平均正答率を100として、各教科における本市の結果（指標）をグラフで表しています。



○各学校や児童生徒の日々の取組の成果として、小学校・中学校ともに、全ての教科において全国平均正答率を上回る結果となっています。特に、小学校の国語Bや理科は、全国比105を上回る結果となっています。

(2) 成果と課題

各教科の調査問題[※]における解答・回答の結果について、山口市の傾向をまとめています。

- ◎…正答率が高かった問題や、経年比較による課題の解決が見られる問題
- ▼…本市の正答率が50%以下、または全国平均正答率を下回る等、課題の見られる問題

また、解答結果から見られる学びのポイントについて、次の3点でまとめています。

- ❓ …児童生徒の解答傾向
- 🔍 …解答結果の考察
- ❗ …学びのポイント

※ 調査問題の詳細や全国の調査結果、授業アイデア集などは、国立教育政策研究所の「教育課程研究センター全国学力・学習状況調査」内、「平成30年度調査」のリンク (<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>) から閲覧することができます。

- ◎相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などをあげながら筋道を立てて話すこと。(1)
- ◎慣用句の意味を理解し、使うこと。(6)
- ▼文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書くこと。(5)

※ (1) などは問題番号です。

<解答結果から見られる学びのポイント>

— 国語A 5 文の中における主語と述語の関係に注目して、文を正しく書く問題 —

正答

- 選んだ文の番号・・・④
- 書き直した一文

【正答率45%】

(例) 反省点は、用具の手入れをあまりしなかったことです。

5 大山さんは、春休みの出来事について文章を書いたあと、読み返して……部と——部とのつながりが合っていない文があることに気づきました。次の「春休みの出来事の一部」をよく読んで、あとの(問い)に答えましょう。

【春休みの出来事の一部】 文のはじめにある数字は、その文の番号を示しています。

①ほくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は見事に実りました。②ほくたちのチームは、地区大会で優勝したのです。③今年の春休みは、とてもじゆう実したものでなりました。でも、反省していることもあります。④反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけではなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。

(問い) ……部と——部とのつながりが合っていない文の番号を、①から④までの中から一つ選んで書きましょう。また、……部はそのままにして、文の意味が変わらないように、選んだ文を正しく書き直しましょう。

選んだ文の番号……

④以外を選択する誤答が36%、文の意味が変わらないように正しく書くことができない誤答が13%見られました。

文の意味を明確に伝えるために、書き出しの主語と述語の部分を照応させて、正しく書くことに課題がみられます。

この問題では、文の中での語句の役割や、主語・述語の関係に気を付けて、文をどのように組み立てればよいかを考えることが必要です。

主語と述語の関係を正しく理解するためには、日々の学習で、主語から話し始めて最後まで話したりすることや、文章を書いた後に読み返して確かめたりする経験をくり返すことが大切です。

◎話し合いの参加者として、質問の意図を捉えることや、計画的に話し合うために、司会の役割について捉えること。(1の一・二)

▼目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くこと。(2の二)

▼目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかむこと。(3の二)

※ (1の一)などは問題番号です。

<解答結果から見られる学びのポイント>

—国語B 2 二 献立を推薦する文章を書く(「かみかみあえ」)—

正答例

(かみかみあえは)するめが入っていて、よくかんで食べる
 こんだてです。よくかむため、だ液がたくさん出て、口の中
 をきれいに保つので、むし歯になりにくいのです。

【正答率18%】

〇〇〇【紹介する文章】と【保健室の先生の話から分かったこと】から言葉や文を取り上げて書くこと
 〇〇〇【おすすめする文章】にふさわしい言葉を用いて書くこと。
 〇〇〇書き出しの言葉に続けて、五十文字以上、八十文字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

【保健室の先生の話から分かったこと】

食べ物をよくかむと、

- 口のまわりのきんにくを動かすことになり、のうの働きが活発になる。
- だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つので、むし歯になりにくい。
- まんぷく感が得られ、食べ過ぎにならない。
- 食べ物本来の味が分かるので、うす味の食事に慣れる。
- だ液の量が増え、消化がよくなる。

2

二 星野さんは、「かみかみあえ」のむし歯を防ぐ効果に着目して【おすすめする文章】の書くことにしました。そこで、以前メモしていた【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れてくわしく書くようとしています。

? よくかむことについて取り上げて文章をかくことはできるものの、だ液が出て口の中がきれいに保たれることに触れられていない誤答が31%見られました。

Q 相手に自分の意図が伝わるように、確かな理由や根拠とするための内容を適切に取り上げて説明することに課題が見られます。

! この問題では、むし歯を防ぐ効果について、保健室の先生の話の中から必要な内容を取り上げて説明することと、「かみかみあえは」という書き出しにあわせるため、かむことで、だ液がよく出ることを説明する必要があります。

このことから、説明したい内容を順序立てて話したり、いろいろな情報の中から相手に伝わるように適切に根拠を取り上げて書いたりすることが大切です。

- ◎十進位取り記数法で表された数の大小について理解すること。〔3〕
- ◎示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現すること。〔6〕
- ▼小数の除法について理解すること。〔2〕
- ▼円周率の意味について理解することや、直径の長さや円周の長さの関係について理解すること。〔7〕の(1)・(2))

※〔3〕などは問題番号です。

<解答結果から見られる学びのポイント>

－ 算数A〔7〕(1)(2) 円周率を求める式と、円の直径・円周の関係－

〔7〕 次の問題に答えましょう。

(1) 円周率を求める式を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 円周の長さ × 半径の長さ
- 2 円周の長さ × 直径の長さ
- 3 円周の長さ ÷ 直径の長さ
- 4 直径の長さ ÷ 円周の長さ

正答

3

【正答率 46%】



2 を選択した誤答が 33%、4 を選択した誤答が 14% 見られました。

(2) 下の文の にあてはまるものを考えます。

円があります。この円の直径の長さを 2 倍にします。
このとき、直径の長さを 2 倍にした円の円周の長さは、もとの円の円周の長さの 倍になります。



円周の長さ、円の直径、円周率の関係の理解について課題がみられます。

- ア 2
- イ 3.14
- ウ 4
- エ 6.28

正答

ア

【正答率 51%】



イ を選択した誤答が 32% 見られました。



どのような大きさの円についても、円周の直径に対する割合が一定であることを、きちんと理解することについて課題があります。



この問題では、円周率が、円の直径と円周の長さとの関係を表していることをあまり理解できていないことがわかります。円周を求める立式だけでなく、円周率が何を示すものかを理解しておくことが重要です。

そのために、円の直径と円周との関係を実際に測定し、その結果をまとめる活動をとおして、円周の長さが直径に比例することや、円周の長さから直径の長さを求めることができること等の理解につなげていく必要があります。

◎合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすこと。

(1)の(1))

◎条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現すること。(4)の(1))

▼一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断すること。(3)の(2))

※ (1)の(1)) などは問題番号です。

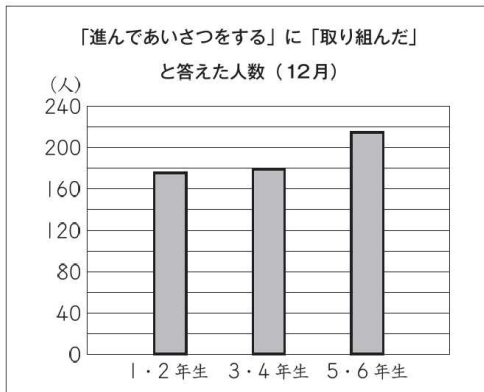
<解答結果から見られる学びのポイント>

— 算数B 3 (2)情報の関連付けと解釈・表現及び判断(アンケートの結果調べ) —

3

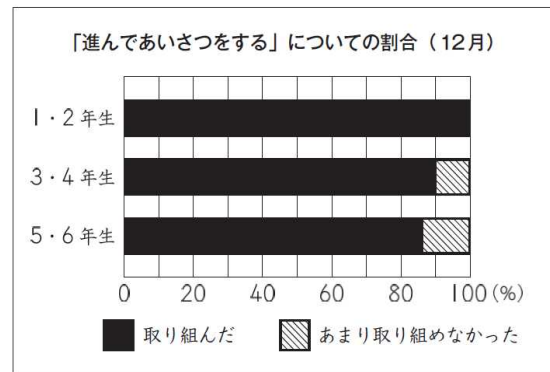
しおりさんたちは、「進んであいさつをする」について、12月のアンケート調査の結果を、1・2年生、3・4年生、5・6年生に分けて調べました。
そして、「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数を、グラフ1に表しました。

グラフ1



しおりさんたちは、1・2年生、3・4年生、5・6年生それぞれの、学年の人数をもとにしたときの「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数の割合を求め、グラフ2に表しました。

グラフ2



(2) グラフ1とグラフ2を見て、次のようにまとめます。



「取り組んだ」と答えた人数が、いちばん多いのは5・6年生ですね。



でも、1・2年生、3・4年生、5・6年生の学年の人数が、それぞれ175人、200人、250人と、ちがうので、「取り組んだ」と答えた人数の割合も調べてみませんか。

・ 「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数が、いちばん少ないのは [㉞] です。

・ [㉞] の、「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数の割合は、いちばん [㉟] です。

上の㉞にあてはまるものを、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、上の㉟にあてはまるものを、下の4と5から選んで、その番号を書きましょう。

- 1 1・2年生
- 2 3・4年生
- 3 5・6年生
- 4 小さい
- 5 大きい

正答

㉞ 1 ㉟ 5

【正答率25%】



㉞の問いを3と答え、㉟の問いで4と答える誤答が55%見られました。



帯グラフから、人数の割合の大小を判断することについて課題がみられます。



この問題では、棒グラフと帯グラフから読み取ったことを用いて、人数と割合の大小を適切に判断することが必要です。

そのために、日常生活の事象や資料から主体的に問題を見いだして情報を収集するとともに、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりする経験を積んでいくことが大切です。

- ◎安全に留意し、生物を愛する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想すること。(1)の(1))
- ◎堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解すること。(2)の(1))
- ▼増水による土地の変化について、より妥当な考えをつくりだすために実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述すること。(2)の(3))
- ▼実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述すること。(4)の(4))

※ (1)の(1)) などは問題番号です。

<解答結果から見られる学びのポイント>


— 理科2 (3) 実験結果を基にした分析 (増水による土地の変化) —

2

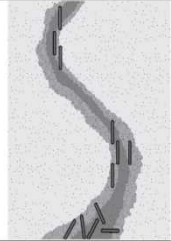
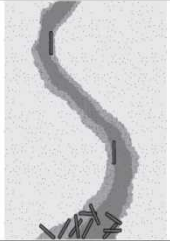
水の量を変えた実験

○地面のけずられ方についてくわしく調べるために、みぞの曲がっているところの外側と内側に3本ずつ棒を立てる。

○1本のペットボトルの水を流したとき、2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようすを調べる。



実験結果

| 1本のペットボトルの水を流したときの棒のようす | 2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようす |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |

(3) 上の実験の結果から、川を流れる水の量が増えると、川の曲がっているところの外側と内側の地面のけずられ方は、どのようになると考えられますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを実験結果の「水の量」と「棒のようす」がわかるようにして書きましょう。

- 1 外側も内側もけずられる。
- 2 外側も内側もけずられない。
- 3 外側だけがけずられる。
- 4 内側だけがけずられる。

正答例

1

わけ：2本のペットボトルの水を同時に流して、水を増やすと、みぞの曲がっているところの外側と内側の両方とも棒がたおれたから。【正答率22%】

この問題では、3を選択する誤答が49%見られ、1を選択したものの、的確に理由が書けない誤答が21%見られました。

流れる水の量を増やしたことによる地面のけずられ方の分析について、判断した根拠となる事実を的確に記述することに課題がみられます。

この問題では、土地の浸食について理解するために、一度に流す水の量を増やしたという原因と、棒の倒れた位置や本数が変化したという結果を関係付けて捉えることが必要です。そのために、日々の学習における実験活動では、実験結果を的確に記録すること、そしてその結果を基に分析して考察し、より妥当な考えを導く経験を積むことが大切です。また、身近に起こりうる自然災害への適切な対応につながる学習をとおして、理科を学習することの有用性を感じる事が重要です。

- ◎書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成すること。(2の一)
- ◎古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉えること。(8の六1)
- ▼語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。(8の三エ)
- ▼目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くこと。(8の四2)

※ (2の一) などは問題番号です。

<解答結果から見られる学びのポイント>

— 国語A 8 四 1, 2 「心を打たれる」の慣用句の意味を理解し、構成を考え適切な文を書く問題 —

正答・正答例

- 1 2 【正答率95%】
- 2 私は、スポーツ選手の努力する姿に（心を打たれた。）
【正答率23%】

1の問いでは、「心を打たれる」の正しい意味を選ぶことができますが、2の問いで、一文にする際「心を打たれた」の主語を明確にできない誤答が63%見られました。

1の問いでは、ほとんどの生徒が適切な意味を選択することができますが、2の問いでは、小学校国語Aの問題と同様、主語の部分を文末の「心を打たれた」に照応させて文章を書くことに課題があります。

この問題では、慣用句の意味を正しく理解した上で、主語にあたる人物が、誰(何)の、どのようなことに心を打たれたかを、一文にすることが重要です。そのために、「主語」、「誰(何)の」、「どのようなこと」という三つの要素を関連付け、文の成分の順序や照応、構成を考えてから適切な文章を書く経験を積んでいく必要があります。

かが分かるように書くこと。
主語を明らかにした上で、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」の

- 1 遠慮する。
- 2 感動する。
- 3 一つのこと集中する。
- 4 あれこれと心配する。

心を打たれる

4 次の各問いに答えなさい。
1 次の言葉の意味として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選

8

- ◎質問の意図を捉えること。(2の一)
- ◎場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解すること。(3の一)
- ▼目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと。(1の三)
- ▼全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すこと。(2の三)

※ (2の一) などは問題番号です。

<解答結果から見られる学びのポイント>

—国語B 2三 全体と部分の関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す問題—

三 山川さんは、最後にロボットに期待することを述べて発表をまとめます。山川さんの話の進め方として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 これまで話してきた内容や聞き手とのやりとりを踏まえた上で、【資料】の中の③の情報を取り上げながら発表をまとめる。

2 聞き手とのやりとりを通して生まれた新たな考えをもとに、【資料】の中の①と②の情報を使って発表をまとめる。

3 これまで話してきた内容や聞き手とのやりとりは踏まえずに、【資料】の中の③の情報を使って発表をまとめる。

4 聞き手とのやりとりの内容を受けて話の方向を転換し、【資料】の中の③の情報を触れずに発表をまとめる。

人とコミュニケーションをとるロボットが、どのような会話をするのか詳しく聞きたいな。

南さん

これから「ロボットに期待すること」について発表します。

こちらの資料の③を見てください。私は、人とコミュニケーションをとることができる人型や動物型のロボットについて調べました。皆さんはこのようなロボットを見たことがありますか。それぞれのロボットによってできることは少しずつ違います。②にまとめましたが、特に私が注目したのは、人と触れ合うことで、一人一人の顔を覚えたり、接する相手に合わせて動いたりするロボットがあることです。ロボットも人間と同じように学習するということが驚きました。

私は、このような人とコミュニケーションをとることができるロボットを祖母に贈りたくりました。速くに住んでいてなかなか会うことができない一人暮らしの祖母の生活に役立つと考えたからです。

ここまでで何か質問はありますか。

人とコミュニケーションをとるロボットが、どのような会話をするのか知りたいのですが、具体的な会話の例を教えてくださいな。

山川さんは、一人暮らしのおばあさんの生活にロボットがどのように役立つと考えているのですか。

南さん 大野さん

正 答 1
【正答率53%】

? この問題では、2を選択する誤答が22%、4を選択する誤答が13%見られました。

ロボットに期待すること

1 人とコミュニケーションをとるロボットの例

| | |
|---------|----------|
| 人型のロボット | 動物型のロボット |
| | |

2 ロボットができることの例

- 人の言葉や行動を認識して反応する。
 - ・ 簡単な日常会話をする。
 - ・ ニュースや天気予報を伝える。
- 人と触れ合うことで学習する。
 - ・ 一人一人の顔を覚える。
 - ・ 接する相手に合わせて動く。

3 これからの社会とロボット

- ・ 65歳以上の人口の割合は、2060年には日本の総人口の約4割になる見込み。
- ・ 総務省のアンケート調査では、60代以上の54.5%が、人とコミュニケーションをとるロボットを「利用したい」、「利用を検討してもよい」と回答。
(総務省ウェブページによる。)

Q 質問の意図を捉える問題(2の一)は、正答率がおおよそ88%と高い数値でしたが、相手の反応を踏まえながら、全体として話をまとめることについては課題があります。

! 伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるためには、表現の工夫をすることや、相手の反応を踏まえながら話すことが大切です。また、相手の話を聞きながら自分の考えを整理するためには、必要に応じて質問し、相手がいいたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりすることも大切です。

聞き手とのこうしたやりとりを踏まえながら、全体として伝えたいことを明確にして話す経験を積むことが必要です。

- ◎数直線上の点に示された負の整数を読み取ること。(1の(1))
- ◎見取り図、投影図から空間図形を読み取ること。(5の(3))
- ▼等式の性質を用いて目的に応じて変形すること。(2の(4))
- ▼一次関数 $y=ax+b$ について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めること。(11の(1))

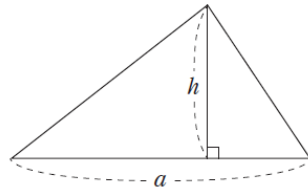
※ (1の(1)) などは問題番号です。

<解答結果から見られる学びのポイント>

— 数学A 2 (4) 等式を変形する問題、11 (1) 一次関数の増加量を求める問題—

2 (4) 右の図で、底辺の長さ a 、高さ h の三角形の面積 S は、次のように表されます。

$$S = \frac{1}{2} ah$$



底辺の長さを求めるために、この式を、 a について解きなさい。

正答

$$a = \frac{2S}{h} \quad \text{【正答率 50%】}$$

? この問題では、 a について正しく変形できていない誤答が 35%、無回答が 15% 見られました。

Q 平成 21 年度と同一の問題 【全国正答率 45.7%】で、その際と比較して、わずかに正答率が上がったものの、依然として、等式を目的に応じて変形することに課題があります

11

(1) 一次関数 $y = 2x + 7$ について、 x の値が 1 から 4 まで増加したときの y の増加量を求めなさい。

解 1

| | |
|--------------|-----------|
| $x=1$ のとき | $x=4$ のとき |
| $y=2+7$ | $y=8+7$ |
| $y=9$ | $y=15$ |
| y の増加量 | |
| $15 - 9 = 6$ | |

解 2

変化の割合(傾き)が 2 より
 $2 \times (4-1) = 6$

正答

6

【正答率 46%】

? この問題では、 y の増加量を 6 と導き出せない誤答が 38%、無回答が 16% 見られました。

Q 平成 28 年度に同様の問題 【全国正答率 40.3%】が出題された際と比較して一定の成果はみられるものの、 x の増加量に対する y の増加量を求めることについて課題がみられました。

! 等式変形の手順については、複数の方法が考えられます。複数の手順を取り上げる中で、いずれも等式の性質を根拠にして式変形していることを確認することが大切です。

y の増加量を求めるためには、一次関数の表やグラフを関連付けて、増加量を視覚的に捉えていくことが大切です。

- ◎問題場面における考察の対象を明確に捉えること (2)の(1))
- ◎グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈すること。(3)の(2))
- ▼与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えること。(1)の(2))
- ▼事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。(3)の(3))

※ (2)の(1))などは問題番号です。

<解答結果から見られる学びのポイント>

— 数学B 1 (2) 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉える問題—

1 第一中学校では、昼の放送で音楽を流します。放送委員の拓真さんと菜月さんは、全校生徒300人を対象に、あらかじめ準備した8曲の中から流してほしい1曲を選ぶアンケートを実施しました。そして、回収した回答用紙の結果から、全校での順位の上位4曲を流すことにしました。下の表は、その回答用紙をもとにして、結果をまとめたものです。

アンケートの結果1

| 順位 | 曲 | 回答した生徒数(人) | | | |
|----|---|------------|-----|-----|-----|
| | | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 全校 |
| 1位 | A | 16 | 19 | 20 | 55 |
| 2位 | B | 12 | 23 | 18 | 53 |
| 3位 | C | 15 | 17 | 20 | 52 |
| 4位 | D | 9 | 18 | 23 | 50 |
| 5位 | E | 16 | 8 | 5 | 29 |
| 6位 | F | 20 | 4 | 3 | 27 |
| 7位 | G | 8 | 7 | 6 | 21 |
| 8位 | H | 6 | 5 | 2 | 13 |
| 合計 | | 102 | 101 | 97 | 300 |

(2) 拓真さんは、アンケートの結果1の上位4曲を流す順番について、下のような放送計画を考えました。

放送計画

その日に流す曲を、アンケートの結果1の上位4曲の中からくじ引きで決める。くじ引きは1日1回ずつ行い、4日間で4曲を流す。

くじ引きの方法

- ① A, B, C, Dが1つずつ書かれた4枚のくじを用意する。
- ② 1日目は、その4枚のくじの中から1枚を引く。ただし、引いたくじは戻さないものとする。
- ③ 2日目以降は、残ったくじの中から1枚を引く。ただし、引いたくじは戻さないものとする。



この放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求めなさい。ただし、どのくじを引くことも同様に確からしいものとします。

正答

$$\frac{1}{12}$$

【正答率43%】

? $\frac{1}{4}$ と答える誤答が12%、 $\frac{1}{6}$ と答える誤答が9%見られました。

Q 不確定な事象についての情報を読み取り、図にして表す等、必要な情報を適切に処理することに課題があります。

! 起こり得る場合の数を基にして確率を求めるには、同様に確からしいと考えられる起こり得るすべての場合を正しく求める必要があります。日々の学習で、樹形図や表などを利用して起こり得る全ての場合を順序よく書き上げる経験をたくさん積み上げておくことが大切です。

また、場合の数に基づいて確率を求めた際はそれが正しいかどうかだけでなく、そのことによってある事柄の起こりやすさについてどのようなことが分かったのかを実験や調査などをとおして確認することも大切です。

◎豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係を指摘すること。(6)の(3))

◎初期微動継続時間の長さや震源からの距離の関係の知識と音の速さに関する知識を活用すること。(7)の(3))

▼風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用すること。(3)の(1))

※ (6)の(3)) などは問題番号です。

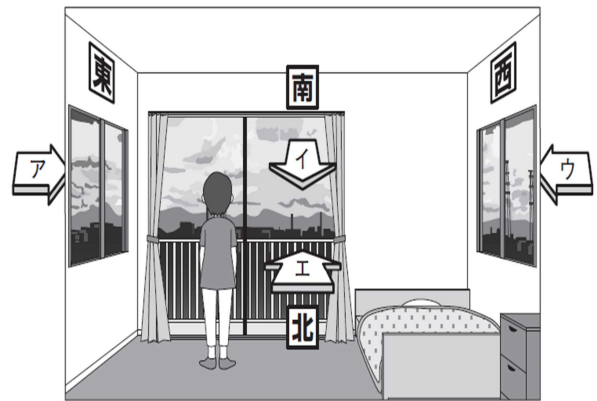
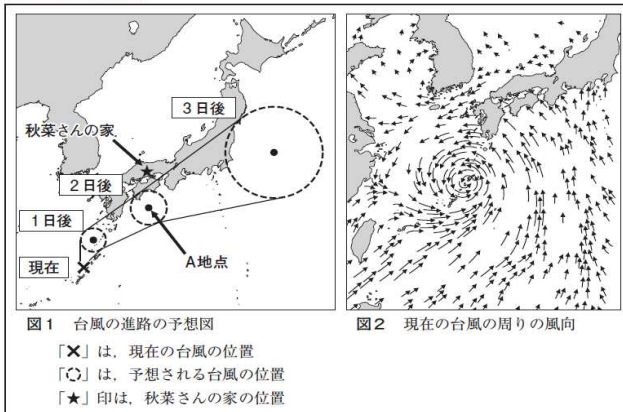
<解答結果から見られる学びのポイント>

ー 理科3 (1) 風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用する問題ー

3 秋菜さんは、コンピュータを使って、台風の情報を集めたり進路のシミュレーションをしたりして、科学的に探究しました。

(1) 台風的位置がA地点のとき、秋菜さんの家で観測される風向を、図2を参考にして予想しました。予想される風向として最も適切なものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。

集めた台風の情報



正答

ア
【正答率39%】



全国平均はわずかに上回っているものの、ウを選択する誤答が32%、イを選択する誤答が16%見られました。



コンピュータを使ったシミュレーションで、台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と、地図上における自宅の位置や台風の進路、自分から見た風向とを関連付けることに課題が見られます。



この問題では、台風に関する複数の情報を基に、風向を上空からの視点と観測地点における視点で捉えたり、台風の進路に関するシミュレーションの結果から考察したりすることが必要です。

このような空間概念を形成するために、大気中で起こる様々な自然現象を空間的な広がりの中で捉えながら、台風の進路予想図、周りの風向を表した図、観測地点での台風的位置や移動方向等、複数の情報を関連付けて考える経験を積むことが必要です。

3 生活習慣や学習環境等の結果

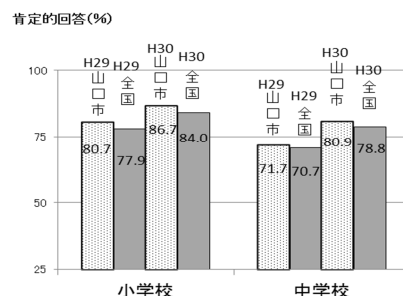
◎…望ましい状況 ▼…課題の見られる状況

◎自己肯定感の涵養

平成29年度の調査に比べ、肯定的に回答している児童生徒が増えています。また、全国平均に比べて肯定的に回答している児童生徒が多いことが分かります。

教育活動全体をとおし、引き続き子どもたちが自分自身を大切に思う自己肯定感を養うとともに、他者を思いやる豊かな心を育てていくことが大切です。

自分には、よいところがあると思いますか

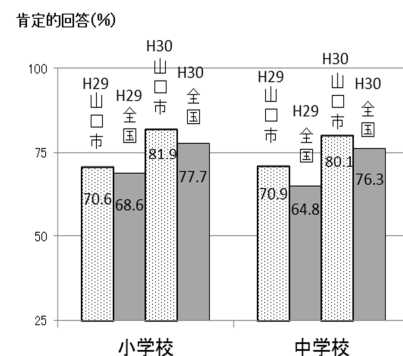


◎話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすること

「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童生徒は約80%で、昨年度に比べて約10ポイント高い数値になっています。学習中の話し合い活動や、意見交換の機会が増えていることが分かります。

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善が進んできています。引き続き、すべての児童生徒が互いの考えを聞き合い深め合うことができるような、能動的で質の高い学びを進めていくことが大切です。

話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていますか

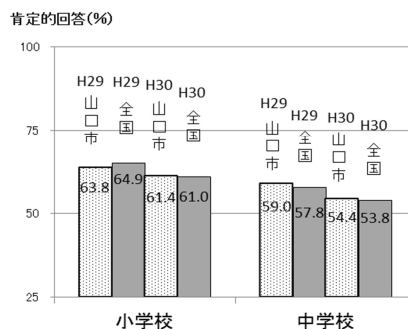


▼自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表すること

「学習中、聞き手にうまく伝わるように工夫して発表している」と回答した児童生徒は、小学校で約61%、中学校で約54%と、昨年度に比べてやや減少しています。

話し合い活動を通じて他者の意見を聞き、自分の考えを深めたり広げたりする機会は増えていきますので、今後さらに安心して考えを発表できる学級づくりを進めるとともに考えがうまく伝わるような工夫を重ねていく必要があります。

自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか

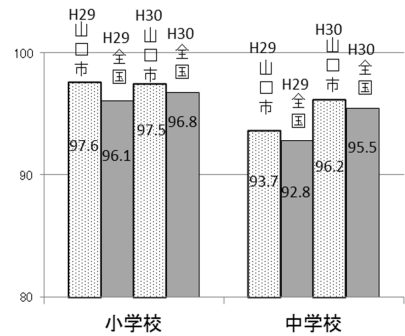


◎▼いじめを許さないという意識

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した児童生徒は小学校で約 98%、中学校で約 96%となっており、全国平均値を上回る結果となっていますが、100%には至っていません。

「いじめは絶対に許されない行為」であることをすべての児童生徒が認識し機会あるごとに考えるといった、いじめを許さない学校風土づくりを、今後も引き続き進めていくことが大切です。

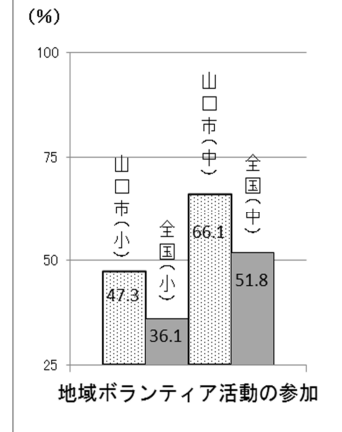
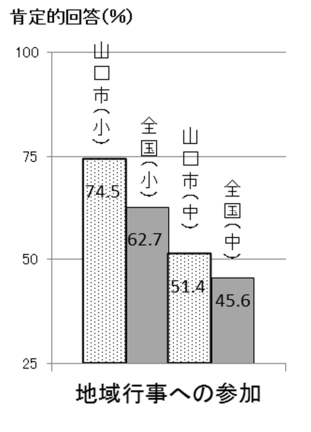
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
肯定的回答(%)



◎地域行事への参加、地域とのかかわり

「今住んでいる地域の行事に参加している」、「地域ボランティア活動に参加したことがある」と回答した児童生徒の割合は、全国平均と比べ、小学校、中学校とも全国平均より高い数値になっています。

コミュニティ・スクールの取組により、地域と関わる機会が増え、さまざまな地域行事、学校・地域・家庭の協働が進んでいます。今後も学校・家庭・地域が、地域で育てる子ども像を共有しながら計画的・継続的に取り組んでいく必要があります。



▼読書習慣

平日において、「10分以上読書をしている」と回答した児童生徒は、小学校で約 79%、中学校で 71%となっていますが、依然として「全くしない」と回答する児童生徒が、小学校で 21%、中学校で約 29%みられることに課題があります。

本に触れる機会の充実を図るための継続的な取組、学校図書館の利用しやすい空間づくり等、さまざまな工夫をしていく必要があります。

普段(月曜~金曜)、1日あたりどれくらい、読書をしていますか (%)

| | 小学校 | | 中学校 | |
|-----|-----------|-------|-----------|-------|
| | 10分以上している | 全くしない | 10分以上している | 全くしない |
| H29 | 79.4 | 20.5 | 70.6 | 29.1 |
| H30 | 78.9 | 21.0 | 71.0 | 28.8 |

4 課題解決に向けた各学校の取組事例

○ A小学校では、話す力や聞く力の育成をめざし、日々の授業で話す際は、「～ですよね。」「～ではないですか。」等、相手を意識しながら一文を短くする言葉を用いるようにしています。また、定期的に音読集会を実施し、自分の伝えたいことを分かりやすく伝える場を設定しています。

○ B中学校では、「主体的」「対話的」「深い学び」の観点から、生徒目線でのアンケートを実施し、授業改善に役立てています。また、家庭生活にも目を向け、生活時間アンケートを実施したり、睡眠時間やメディア利用についての情報発信を行ったりするなど、家庭内で話をする機会を意図的に設ける工夫をしています。

○ C小学校では、先行導入されたICT機器を活用し、特に算数では、ほぼすべての授業で電子黒板とデジタル教科書を活用して授業を行うことで、視覚的に児童の理解を促すことができている。また、教師の教材づくり等の時間短縮にもなり、発問などの教材研究をする時間の確保につながっています。

○ D中学校では、全国学力・学習状況調査の結果について、対象生徒の経年比較を行い、入学時からの成果と課題を明らかにしたり、A問題とB問題の相関を詳細に分析したりすることで、生徒の実態に応じた課題解決が進められています。今年度は特に「めあて」「振り返り」に焦点をあて、生徒の達成感、自己肯定感を高めることができるよう、全校体制で取組が進んでいます。

○ E小学校では、朝読書に加え、毎週全学級読み聞かせ活動、同一中学校区内における他校との読書郵便等のさまざまな読書活動に継続して取り組んでいます。さらに、地域による子どもへの学習支援がとて活発で、学校の教育活動へ多数のボランティアに関わっていただいているとともに、地域の先人についても継続的に学び、先人の努力する姿を地域の誇りに感じながら、自らの学びの姿の目標にもしています。

○ F小学校では、子どもたちの課題を的確に把握し、教育活動全体をとおして課題の解決に向かう取組を重ねています。そこで、地域の実態に合わせながら学習テーマや条件等を調整して子どもに示すことによって、基礎基本等必要な力を高めるとともに、子どもの意欲を高め続けるための工夫をしています。

○ G中学校では、「発言をする人におへそを向ける」をキーワードに、話に相づちを打ちながら聴く姿勢を大切にしています。発言をする人に「自分の話を聴いてくれている」安心感を与え、生徒の自己肯定感の高まりにつながるよう取り組んでいます。

山口市教育委員会は、今年度の成果と課題を踏まえ、日常的な学校訪問によって各学校の実態に応じたきめ細かな指導助言と支援を継続することで、児童・生徒の学力の向上と望ましい学習習慣の定着を図っていきます。